

第9課「キリストにある自由」

日曜日「有罪宣告からの解放」

有罪宣告は私達に対する罪の支配は絶対的で、人は永遠の死を免れることができないと宣言します。キリストはその状態から人間を解放するためにご自分をささげ、無罪を宣言しました。もしもそれが私達にとって真に喜ばしいことであるなら、再び有罪に後戻りするようなことは避けましょう。「キリストの法則は命と自由をもたらします」と最下段にあります。キリストにある自由とは感謝と喜びに満たされて思いのままに善を行えることです。何をしても構わないという意味の自由ではありません。

月曜日「律法がなしえなかったこと」

私達に律法の要求を満たす服従の生き方をする力を与えるのは律法ではなくキリストです。それが律法のなしえないことです。律法の要求とは「キリストの品性を反映する生き方です」。そういう生き方がキリストに結ばれてできるようになることが自由になるということです。以前はできなかったことができるようになり、知らなかったことを覚える日常体験と同様に喜ばしいことです。そのような救いと解放の証をもって神を讃えましょう。

火曜日「肉によらず霊による」

私達は何に心を留めているのでしょうか。ユダヤ人は律法を大切にしていました。これまで繰り返し見てきたように、律法は悪いものではないのですが、キリストを心から閉め出したままで律法遵守の努力をすることも可能です。悪い人には見えないのに霊に従って歩む人でもない、つまり、冷たくもなく熱くもないラオデキヤの状態です。私達はキリストを受け入れなければいけません。霊に従って歩むとはキリストに主導権を任せることです。

水曜日「私たちの内に宿る聖霊」

聖霊は直に私達の心に働く神です。聖霊のお陰で罪の支配に抵抗し戦いながら、古い自分に勝利する体験を重ねていけます。キリストにある自由を得るためには戦いがあります。勝利の保証と秘訣は聖霊です。人間には罪に勝つ力はないけれど、罪に負けるのはイヤだと態度、意志をはっきり示しましょう。最後の4行は重要です。

木曜日「子か奴隷か」

奴隷に自由はありません。本来は奴隷の私達が、父なる神の憐れみのお陰で神の子として迎えられ、その身分と相続権をもらいました。「自由を得させるために、キリストはわたしたちを解放して下さったのである。だから、堅く立って、二度と奴隷のくびきにつながれてはならない」ガラテヤ5：1。金曜日の『セレクトッド・メッセージズ』からの引用文にも「だれひとりサタンの奴隷になる必要はない」とあります。

「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜ったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである」第一ヨハネ3：1。